

常設展示 渡辺崋山の生涯

令和8(2026)年6月13日(土)～8月2日(日)・8月8日(土)～10月4日(日)

企画展示室2

作者	作品名	備考	展示期間	
			6/13-8/2	8/8-10/4
つばき ちんざん 椿 椿山	わたなべかざんぞう 渡辺崋山像【複製】	原本: 嘉永6(1853)年 当館蔵 重要文化財		
わたなべかざん 渡辺崋山	あていそうおうず 蘆汀双鴨図	原本: 文化11(1814)年 学校法人常葉大学蔵		
わたなべかざん 渡辺崋山	かいかいたいれいづ 海鶴退齡図	原本: 文化13(1816)年 紙本墨画淡彩		
わたなべかざん 渡辺崋山	さとういつざう 佐藤一斎像【複製】	原本: 文政4(1821)年 東京国立博物館蔵 重要文化財		
わたなべかざん 渡辺崋山	わたなべはしゅうぞうごう 渡辺巴洲像画稿【複製】	原本: 文政7(1824)年 当館蔵 重要文化財		
わたなべかざん 渡辺崋山	かんこうそれいきをまみゆるず 漢高祖酈食其見図	原本: 天保2(1831)年 絹本着色		
わたなべかざん 渡辺崋山	たかみ せんせきぞう 鷹見泉石像【複製】	原本: 天保8(1837)年 東京国立博物館蔵 国宝		
わたなべかざん 渡辺崋山	いちわべいあんぞう 市河米庵像【複製】	原本: 天保8(1837)年 京都国立博物館蔵 重要文化財		
わたなべかざん 渡辺崋山	ちゅうしゅうほげつごんりし 仲秋歩月五言律詩	江戸時代後期 紙本墨書		
わたなべかざん 渡辺崋山	みのかきかいがきん 蓑笠權画賛	江戸時代後期 紙本墨画淡彩		
わたなべかざん 渡辺崋山	げつかめいきず 月下鳴機図【複製】	原本: 江戸時代・天保年間 静嘉堂文庫美術館蔵 重要美術品		
わたなべかざん 渡辺崋山	ヒポクラテス像【複製】	原本: 天保11(1840)年 九州国立博物館蔵 重要美術品		
わたなべかざん 渡辺崋山	ぼたんず しゆんきぎょうえんのず 牡丹図(春暉曉艶之図)【複製】	原本: 天保12(1841)年 当館蔵 重要美術品		
わたなべかざん 渡辺崋山	あしきぎよぞう 鷓鴣捉魚図【複製】	原本: 天保12(1841)年 出光美術館蔵		
わたなべかざん 渡辺崋山	こうこう高門図【複製】	原本: 天保12(1842)年 福田美術館蔵 重要文化財		
わたなべかざん 渡辺崋山	こうりょういっさいず 黄梁一炊図【複製】	原本: 天保12(1843)年 個人蔵 重要美術品		
ミニ特集 蛭社の獄				
	ごようかたにつき 御用方日記	原本: 天保10(1839)年 田原市指定文化財 田原藩日記のうち		
みやげやすなお 三宅康直	にっきしたがり 日記下書	原本: 天保10(1840)年 田原市指定文化財 田原藩日記のうち		
まつぎこうぞう 松崎謙堂	しゅめんけんぼくし 赦免建白書	原本: 田原市指定文化財		
ミニ特集 田原蛭居				
	ごようかたにつき 御用方日記	原本: 天保11(1840)年 田原市指定文化財 田原藩日記のうち		
	ごようかたにつき 御用方日記	原本: 天保12(1841)年 田原市指定文化財 田原藩日記のうち		
	おげんかんさちょう 御玄関置帳	原本: 天保12(1841)年 田原市指定文化財 田原藩日記のうち		

すべて当館蔵

田原市博物館

企画展開催
予告

重文「渡辺崋山像」修理完成記念
未来へつなぐ、重要文化財渡辺崋山関係資料

重要文化財渡辺崋山関係資料のうち、椿椿山筆「渡辺崋山像」は経年による傷みが進行していました。本格的な解体修理が必要と判断し、国庫補助を受けて、令和5～7年度にかけて、解体修理が行われました。本展では、「渡辺崋山像」を修理後初公開するとともに、渡辺崋山の優品を紹介します。

2026年
10月10日(土)～12月6日(日)

渡辺華山年表

和暦&西暦	数え年	できごと	和暦&西暦	数え年	できごと
寛政5(1793)年	1	9月16日、江戸麹町田原藩上屋敷に生まれる。	文政11(1828)年	36	「日省課目」を定め修養に努める。
寛政7(1795)年	3	妹茂登生まれる。			側用人となり、友信の傳を兼ねる。
寛政9(1797)年	5	この年、軽い疱瘡にかかる。	文政12(1829)年	37	三宅家家譜編集を命ぜられる。弟喜平次亡くなる。
寛政12(1800)年	8	若君亀吉のお伽役になる。妹まき生まれる。	天保元(1830)年	38	埼玉県貳尻に三宅氏遺跡を調査し、のちに「訪貳録」を書く。
享和元(1801)年	9	最初の絵の師、平山文鏡(田原藩士)亡くなる。			弟熊次郎亡くなる。
享和3(1803)年	11	弟熊次郎生まれる。	天保2(1831)年	39	江戸藩邸文武稽古掛指南世話役となる。
文化元(1804)年	12	日本橋で備前侯行列に当り、乱暴をうけ発奮する。			妹まき亡くなる。
文化2(1805)年	13	鷹見星卓 に入門し、儒学を学ぶ。弟喜平次 生まれる。			9月から門弟高木梧庵を伴い厚木を旅し「游相日記」を書く。
文化3(1806)年	14	若君元吉(後の康和)のお伽役になる。			10月、桐生、足利、貳尻地方に旅し「毛武遊記」を書く。
文化4(1807)年	15	弟助右エ門生まれる。	天保3(1832)年	40	家老となる。紀州藩破船流木掠取事件、助郷免除事件あり。
文化5(1808)年	16	絵師白川芝山に入門する。星卓より華山の号を受ける。 藩主康友に従って田原に滞在する。	天保4(1833)年	41	1月、家譜編集などのため田原に来て、「参海雑誌」を書く。
文化6(1809)年	17	金子金陵に絵を学ぶ。金陵の紹介により谷文晁に絵を学ぶ。	天保5(1834)年	42	幕命の新田千拓中止の願書を上申。
文化7(1810)年	18	田原に藩校成章館創立。妹つぎ生まれる。			農学者大蔵永常を田原藩に招く。
文化8(1811)年	19	佐藤一斎から儒学を学ぶ。			田原藩、給与改制格高分合制を実施する。
文化10(1814)年	21	妹つぎ亡くなる。	天保6(1835)年	43	報民倉竣工。二男譜(後の小華)生まれる。
文化11(1815)年	22	納戸役になる。絵事甲乙会を結成し、画名世に知られる。	天保7(1836)年	44	田原地方大飢饉。
文化13(1816)年	24	第五郎生まれる。	天保8(1837)年	45	真木定前を田原に遣し、飢饉を救う。
文化14(1817)年	25	父定通、家老となる。			年末、無人島渡航を藩主に願うが許されず。
文政元(1818)年	26	正月、藩政改革の意見を発表。 長崎遊学を希望したが父の反対のため断念する。 「一掃百態図」を描く。藩主康友に従って田原に滞在する。	天保9(1838)年	46	年初、「退役願書稿」を書く。蔵書画幅を藩主に献上する。 「駄舌或門」「慎機論」を著す。
文政2(1819)年	27	江戸日本橋百川楼で書画会を開く。			儒者の伊藤鳳山を田原藩に招く。
文政6(1823)年	31	和田たかと結婚する。「心の掟」を定める。	天保10(1839)年	47	江戸湾測量で伊豆の代官江川坦庵に、人材器具を援助する。
文政7(1824)年	32	7月、家督する。父定通亡くなる。			5月14日、蚕社の獄により北町奉行所揚屋入りとなる。
文政8(1825)年	33	この年から松崎慊堂に儒学を学ぶ。			12月18日、田原蟄居の申渡しを受ける。
文政9(1826)年	34	江戸宿舎にてオランダ使節ビュルゲルと対談。 長女可津生まれる。 この頃から画号「華山」を「華山」と改める。	天保11(1840)年	48	1月20日、田原着。2月12日、池ノ原屋敷に蟄居。
文政10(1827)年	35	10月、三宅友信に従い田原に来る。	天保12(1841)年	49	10月11日、自刃する。